

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	24-419	手稲溪仁会病院 白坂知彦 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター松下幸生
題名 (原題/訳)		
Real-Time Assessment of Alcohol Reward, Stimulation, and Negative Affect in Individuals With and Without Alcohol Use Disorder and Depressive Disorders アルコール使用障害およびうつ病患者におけるアルコール報酬、刺激、および否定的感情のリアルタイム評価		
執筆者		
Andrea C King, Andrew M Fischer, John F Cursio, Nathan A Didier, Zoe Lee, Daniel J Fridberg		
掲載誌		
Am J Psychiatry. 2025 Feb 1;182(2):187-197. doi: 10.1176/appi.ajp.20240069. DOI: 10.1176/appi.ajp.20240069		
キーワード	PMID	
依存症精神医学、アルコール、うつ病、物質関連および依存症	39891444	
要旨		
<p>目的：アロスタシス理論によれば、依存症が進行するにつれて、アルコールは肯定的な効果を生み出すためではなく、否定的な感情を和らげるために消費されるようになるとされています。本研究は、アルコール使用障害 (AUD) の患者と、併存するうつ病 (DEP) により否定的な感情を抱きやすい患者における、アルコールのリアルタイムな主観的影響を調査することを目的としました。</p> <p>方法：参加者 (N=221) は、自然環境下において、アルコール摂取エピソード1回と非アルコール摂取エピソード1回を3時間モニタリングし、高解像度の生態学的瞬間評価を実施しました。参加者はまた、毎日の気分調査と翌日の調査にも回答しました。線形混合効果モデルを用いて、AUD (認知機能低下) を有する120名 (AUD+, うつ病あり [DEP+] : N=64, うつ病なし [DEP-] : N=56) とAUDのない101名 (AUD-, DEP+ : N=45, DEP- : N=56) の参加者間で、飲酒行動と主観的反応 (刺激、鎮静、好意、欲求、否定的感情) を比較しました。</p> <p>結果：モニタリング期間中、AUD群は平均8.5杯 (推定血中アルコール濃度 [eBAC]=0.115 g/dl) の標準アルコールを摂取したのに対し、非AUD群は3.7杯 (eBAC=0.040 g/dl) であった。AUD群は、併存するDEPの有無にかかわらず、非アルコール群と比較して、アルコール摂取期間の大半を通じて刺激効果と報酬効果が増加したと報告した。アルコールは、程度は低いものの、ネガティブな感情を軽減したが、これはAUD群とDEP群に特有のものではなかった。</p> <p>結論：依存症のアロスタシスモデルが負の強化飲酒を強調するのは対照的に、負の感情を抱きやすいAUD患者は、併存疾患のない患者と同様に、アルコールの快感効果に対する顕著かつ持続的な感受性を伴う正のアルコール強化を示すことが研究結果で示された。この研究結果は、依存症理論の外部妥当性を高めるために、自然環境における重要な検証を提供した。</p>		